

ちよんごころ話

第二五 新たな心で

正月とは誠に有難い風習です。心身ともに一年を振り返り是正する為を考える時間を与えられた、休日の三日間です。先月号で**今日一日腹を立てない事**・**今日一日嘘を言わない事**・**今日一日物を無駄にしない事**の三点を守って日々の暮らしをしましょうと、提案しました。現実実践できなかった方々も酉から戌へと干支が変わりました。今年の目標の一つとして実行に移しましょう。**念々不捨々**です。即ち、肝に銘じて棒を折る事無く初志貫徹しましょう。

犬は動物の中でも忠義で、主人に尽くすとされています。事の善悪を教える童話に「はなさかじいさん」や「桃太郎」があります。犬の活躍で、事の善悪が判ります。中でもいまだに伝わる私も何度かお参りしている寺の靈験記に「今よりおよそ二〇〇年程も昔、光前寺に早太郎というたいへん強い山犬が飼われておりました。その頃、遠州府中 静岡県磐田市（見付天神社では田畑が荒らされないようにと、毎年祭りの日に白羽の矢の立てられた家の娘を、生け贄として神様に捧げる人身御供という悲しい習わしがありました。ある年、村を通りかかった旅の僧である一実坊弁存 ひちじつぼうべんぞん）は、神様がそんな悪いことをするはずがないと、その正体をみとどけることにしました。祭りの夜にようすをうかがっていると、大きな怪物が現れ 宵宵、この場に居るまいな。早太郎は居るまいな。信州信濃の早太郎。早太郎には知られるな」などと言いながら、娘をさらっていきました。弁存はすぐさま信州へ向かい、ようやく光前寺の早太郎をさがし当てると、早太郎をかり受けて急ぎ見付村へと帰りました。次の祭りの日には、早太郎が娘の代わりとなって怪物と戦い、それまで村人を苦しめていた怪物 老ヒヒを退治しました。早太郎は化け物との戦いで傷を負いましたが、光前寺までなんとか帰り着くと、和尚さんに怪物退治を知らせるかのように一声高く吠えて息をひきとってしまいました。現在、光前寺の本堂の横に、早太郎のお墓がまつられています。」光前寺のホームページより抜粋）。我らも靈犬の如く悪を断ち切り、善の道を進みましょう。

中国の古典にも「畜犬、本以防姦」と言う言葉があります。姦は悪人と言う意味ですが、文章の本意は「事が起きてからでは遅い、役に立つ人材は常に用意しておくべきだ」と言う意味です。若者の出会い待合の場所に渋谷駅の忠犬ハチコウがいますが、神社に行くと本殿前に狛犬が出迎えて下さいます。**狛犬は御神体及び境内を守護しているのです。**口を開けた阿と口を閉じた吽との二匹で守っています。阿吽は人間の一生を表していきまして、**阿で生まれ吽で死んでいくのです。**寺の山門に眼を光らせすごい形相で我々を出迎えて下さる仁王様もこの狛犬と同じで御本尊様及び境内地を守って見えます。仁王様が阿吽の呼吸を見守ってみえるのです。

我々の所作、我々が**動くたびに**「**一つ一つの縁を生じます。**縁を結んでいくのは個々夫々です。結んだ縁で仕方が無い、結ば無かった縁で仕方が無い。**仕方が無い、仕方が無い**」の人生程つまらないものはない。我々は縁を結ぶ前に縁の善し悪しを適格に判断できるか出来ないかによって大きく差が出て来ってしまうのです。二寸先は闇の「たとえ通り我々は誰しも明るい未来を進めるものではありません。**先行きの事は誰も百セントの見通しは不可能です。**そこで、**佛縁を頂くことをお勧めします。**佛縁を頂き結ぶ事によって、未来を照らすことができる、佛の光明で闇を照らして頂きながら前進して行くべきです。少しづつでも佛の力添えを得て、仕方が無いと諦める事柄を減らして行きたいものです。ちなみに当山の御詠歌は「老松の風のしらべも良き道に入れと教ふる声に通えり」来たる者拒まず。希望を抱いて、願望が成就されます様に御祈念申し上げます。古事に「大を玩べば徳を喪い、物を玩べば志を喪う」とあります。実践すべき教えであると思います。相手を敬う事で、我が徳も増える。徳は命と知るべし。

三十年一月一日

善壽男善入院油掛地藏尊